小林　敏士
（こばやし・さとし）

公益社団法人高平公益社理事長。昭和62年から白沢村議を３期。平成７年からは同議長を１期務める。元白沢村消防団長。白沢町高平。

の授業の中でもやっていただきたいと思いますが、何か歴史的なこと、例えば、養蚕を通じて高齢者と交流をするということも取り組み方の一つではと思っています。これから心配されることは、世代を超えた交流が少なくなると、ますます高齢者は高齢者、子どもは子どもという形になって、高齢者を大切にすることが分からない子どもたちが増えてしまう。これはとても怖いことだと思っています。

星野■田中(志)さんからは、世代間交流のお話が出ましたが、例えば、子ども対大人、青年対高齢者、いろいろな場合がありますが、その中で養蚕に着目された点は素晴らしいと思います。ぜひ、積極的に進めて欲しいと思います。次に石田さん。

石田■市では、新宿区や板橋区などとの交流を進める中で、何か面白い話がないかと投げ掛けをしていただいていますが、わたしたち農業者が物を作る側として考えると何だか行き詰まってしまうんですね。都会の人たちはどんなことを求めているのか、子どもたちは何を求めているのかと。本当に分からない部分があるんです。みんな、物を作ることに関しては一生懸命なのですが。例えば、春に裸の木を見て感動するのか、花を見て感動するのかなど、はっきり分からないんです。ですから、そういう意見の集約を都会の人たちからも聞いてみて、秋にできたものだけを見てもらうのではなくて、一年を通じて見て欲しいなというのはあります。できるだけ、現場で目で見てもらいたいという気持ちですね。

星野■そうですね。一つの形として、そういう方法も取っていく必要があると思います。では、小林さんお願いします。

小林■以前からいろいろ思っているのですが、地域が活気づくためには、やはり若い人たちが地元に残るような政策を考えていかないと。都会との交流も大事ですが、それだけでは、若い人たちはどんどん離れていってしまいます。これでは地元で働いてくれる人がいなくなってしまうのではないかと。だから、そういったことにも力を入れていただきたいと思います。今は四十代でも独身の人が、結構いるんですよね。そのあたりを考えた交流ができれば、もう少し地元が活気づくのではという感じがするんです。

田中(志)■確かに、出会いの場が少ないと思います。

小林■もう少し積極的にやっていただけるといいですね。やっぱり、人口が少なくなるようでは元気も出ないと思います。

星野■そういう意味では、田中(恵)さんのご出身の多那は、後継者もたくさん育っていますし、なかなかすごいですよね。では、田中(恵)さん。

田中(恵)■わたしたちの商工会活動も、今のままではいけないと思いますね。人口はますます減っていますし、空き家も増えている。専業農家で頑張っていた人たちもだんだんと少なくなってしまって。利根町にも、都会から入ってきてくれる人がいればいいなと思っています。

星野■そうですね。今までどおりの対外的な交流はもちろんのこと、今、お話しされたようなこの地域だけの交流ということも大変重要です。都会から若い人を迎え入れる、そういうことも継続して考えていかなければいけないと思います。

全国育樹祭に向けて

星野■では、最後になります。いよいよ、来年秋、県立森林公園「21世紀の森」で全国育樹祭が行われます。当然、これは環境問題を抜きにしては考えられません。そこで、皆さんの立場から、希望や期待など、何か一言ずつお願いします。まずは、地元の石田さんから。

石田■まずは、景観の問題です。周りがきれいになると地域の人たちの気持ちも変わってきます。また、大きなイベントがあると必然的に多くの注目を浴びますよね。そういう刺激が人間には必要だと思います。やはり、暗闇の中で一人でコツコツやっていても、刺激がなくてつまらない。刺激を受けて、人の目にさらされるということが地域の活性化にもつながるし、また、来ていただいた人にも、良い気分になってもらえるのではないかと思います。

星野■では、田中(志)さん。福祉にやさしい育樹祭というものを考えたときに、当然、車イスの人たちにも参加していただくということが考えられると思いますが。

田中(志)■そうですね。十分可能だと思います。ただ、話を聞いていて思ったことは、高齢化ということを逆手に取ってしまってもいいのではないかと。例えば、前期高齢者、後期高齢者という言葉がありますが、沼田は「元気高齢者」ということで。参加者の平均は何歳だけど、こんなに素晴らしい育樹祭ができました。とか。こんなに元気で安心して年が取れるというような形でピーアールしてしまうのもいいのかなと感じました。

星野■大変ありがとうございます。とても参考になるお話をいただいたと思います。小林さんは、どうですか。

小林■例えば、少しお金が掛かっても著名人なんかを呼んでみる。こんなのも一つの手ではないかと思います。また、ぜひ、カーボンオフセットの関係からも中山弘子新宿区長を迎えていただきたい。それから、できるだけ自動車などはガソリンを使わないで、バイオ燃料などを活用した輸送方法を考えるとか。そうすると、また違った展開になってくると思います。

星野■丸山さんは。

丸山■わたしたちが一番出したいのは、やはり森の原風景です。森が一番輝いていたころを何らかの形で表現したい。そういうことを再確認できるような場所になればと思っています。

星野■では、田中(恵)さん。育樹祭ではたくさんのブースができると思いますが、ことによると、東部商工会で、うどんなどの出店をお願いする機会があるかもしれません。そうした場合に、今までの経験からご協力いただくことも可能でしょうか。

田中(恵)■そうですね。うどんやそばなどですと数が限られてしまいますが、地産地消を含めた形でしたら協力できると思います。

星野■このようなイベントでは地元の物産振興のスペースが確保できるんです。そこには、うどんとかそばとか、地元食材を使うことが大事になってきます。もちろん、果樹なども含めてですが。地元の食材を使うことが環境に最も優しいものであると考えています。では、金井さん。最後にまとめを。

金井■わたしは、歴史関係の人間ですが、今日、いろいろな分野の人たちと話をして、あらためて、産業や医療、農業、環境、もちろん観光においても、歴史や文化が大切だということが分かりました。今日は、大変有意義でした。今日で終わりというのは、とても残念な気がします。できれば、このような機会をまた、作っていただけるとうれしいですね。

星野■金井さんが、今、お話されたように、こういった機会は、大変貴重なものです。同じ分野の人たちが懇談するのも大切だと思いますが、違う方面で活躍されている人たちが集まって、いろいろな意見を交わすことは大変意味があると思っております。本日は、そういった意味でも感謝とお礼を申し上げ、閉会したいと思います。どうもありがとうございました。

田中　恵美子
（たなか・えみこ）

平成17年５月から東部商工会女性部長。女性ならではのネットワークを活用して、経営全般や地域づくりを支援している。利根町追貝。